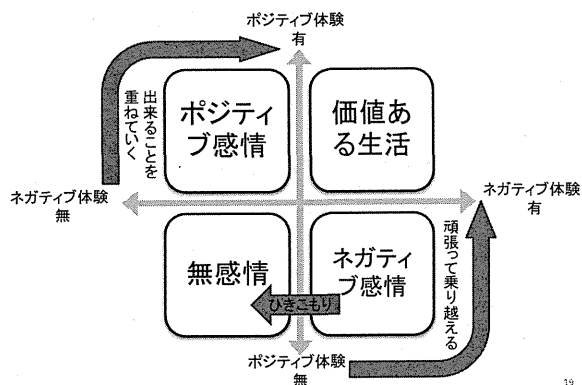
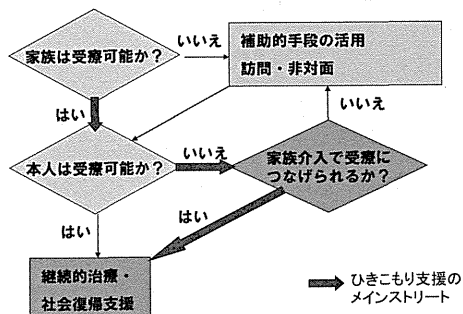


ひきこもりからの回復過程



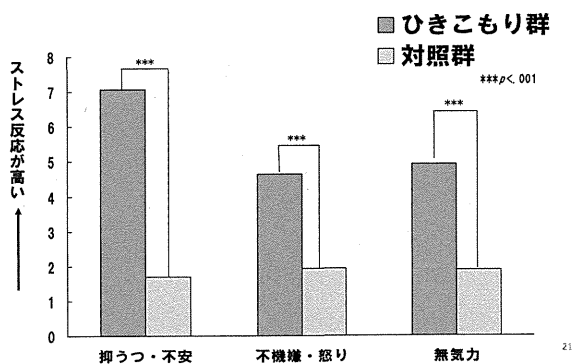
19

ひきこもり状態への支援フローチャート (境, 2007)



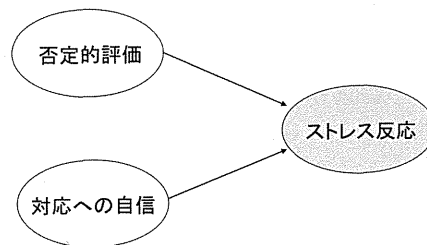
20

家族のストレス反応 (植田ら, 2004) (ひきこもり状態にある人が男性)



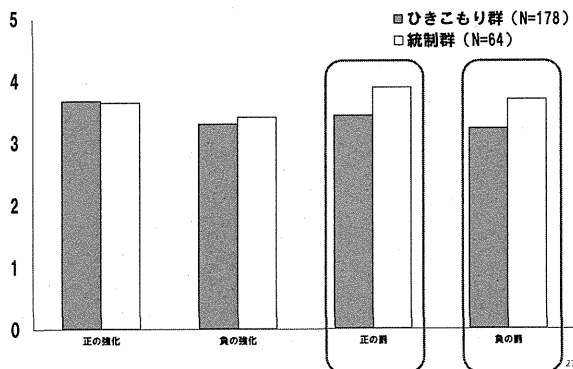
21

家族の心理的負担に影響を与える要因 (境ら, 2009)



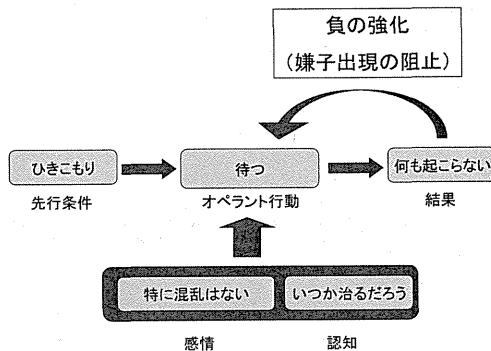
22

ひきこもりの家族関係 (野中・大野・境ら, 2012)



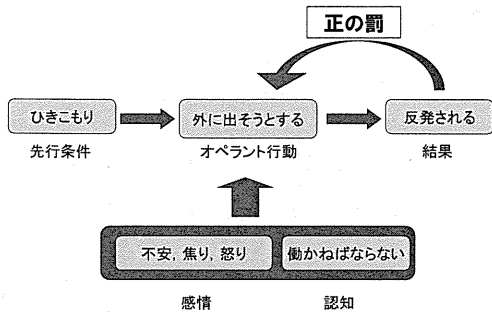
23

ひきこもりの慢性期にいたる家族関係 待つタイプ



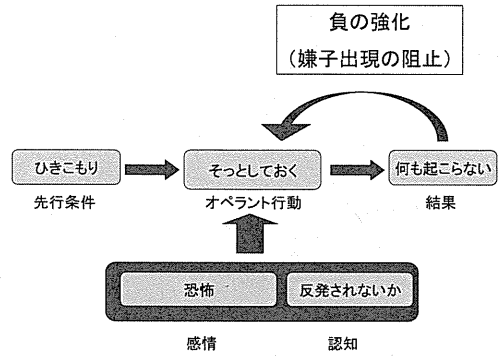
24

ひきこもりの慢性期にいたる家族関係 外に出そうとするタイプ



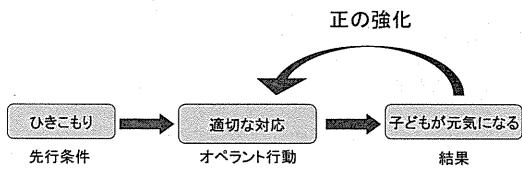
25

ひきこもり慢性期の家族関係



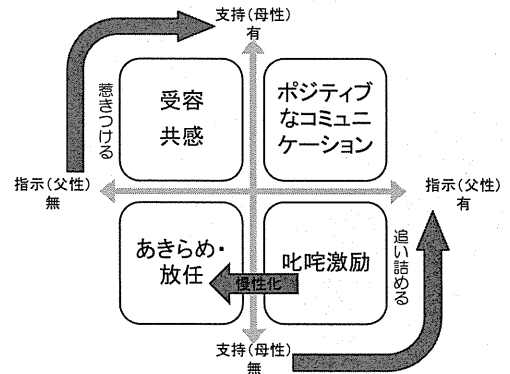
26

ひきこもり回復期の家族関係



27

家族関係の回復過程



28

CRAFTによる家族支援

29

CRAFTとは？

- CRAFT (Community Reinforcement and Family Training: コミュニティ強化と家族訓練) プログラムは、主に受療を拒否する物質乱用者の家族などの重要な関係者を対象とした介入プログラム。
- オペラント条件付けによる行動の予測と制御を活用し、受療を拒否する物質乱用者の治療動機づけを高める効果を実証されている。

30

CRAFTの効果に関するメタ分析 (Roizen, et al., 2010)

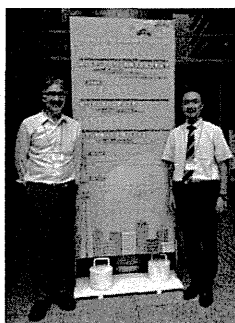
- 治療参加率に関しては、Al-Anon/Nar-Anonの3.25倍、ジョンソン研究所式介入の2.15倍の効果がある。
- 治療を拒否していた3分の2の依存症者が、4～6セッションで治療に参加している。
- 家族の心身機能の回復は、CRAFT, Al-Anon/Nar-Anon, ジョンソン研究所式介入のいずれにおいても認められた。

31

CRAFTのひきこもりへの適用

- 本邦でも、厚生労働省が作成したひきこもりの評価・支援に関するガイドラインにCRAFTプログラムが紹介される(齋藤, 2010)。
- ひきこもり状態にある人の家族に対するCRAFTの効果として、受療, 社会参加が促進される(野中ら, 2013; 山本, 2012), 家族関係機能が改善することなどが報告されている(平川ら, 2011)。

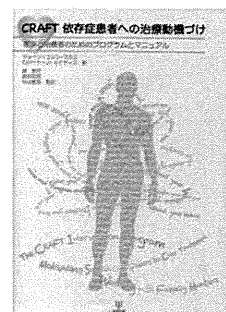
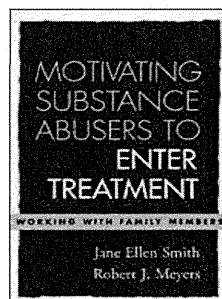
CRAFTの開発者Meyers先生



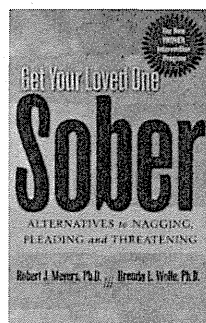
- 2013年8月23日～25日に開催されたアジアCBT会議にて教育講演, シンポジウム, ワークショップにご登壇。
- 2013年8月28日～30日にかけて, 徳島大学で2日半のワークショップを開催。

33

セラピスト向け



一般向け著書



ひきこもりの家族支援ワークブック



- CRAFTをひきこもりの家族支援に応用したワークブック
- 金剛出版
- 2,800円(税別)

36

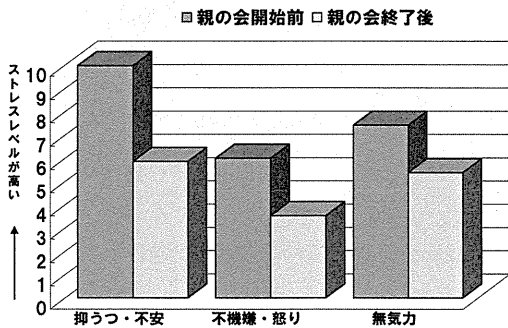
実施上の前提

- 家族を支援することを最優先にする。
- 家族と子供の安全に最大限の注意を払う。
- 子供を受け入れる準備ができてから、相談機関の利用を促す。

CRAFTの目的

- 家族自身の機能回復
- ひきこもり本人と家族の関係回復
- ひきこもり本人と社会をつなげる

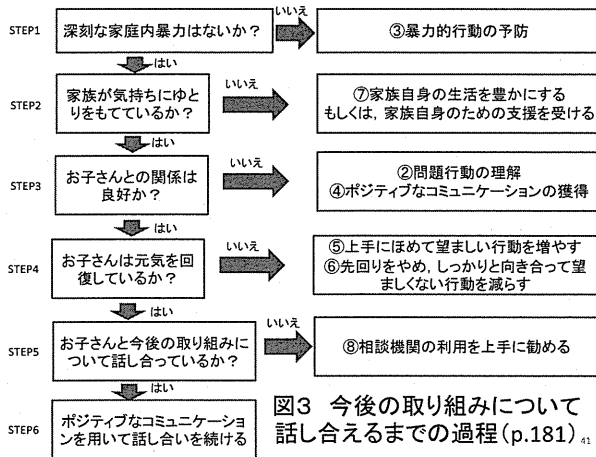
親の会の効果（植田ら，2004）



CRAFTプログラム

- ひきこもりの若者と社会をつなぐために
- 問題行動の理解
- 暴力的行動の予防
- ポジティブなコミュニケーションスキルの獲得
- 上手にほめて望ましい行動を増やす
- 先回りをやめ、しっかりと向き合って望ましくない行動を減らす
- 家族自身の生活を豊かにする
- 相談機関の利用を上手に勧める

Community Reinforcement and Family Training (通称CRAFT; Smith & Meyers, 2004 (植田ら (監訳) 2012 CRAFT依存症患者への治療動機づけ 金剛出版)を参考に作成.



問題行動の理解: 機能分析

#1HW 気になる行動のリスト (p.27, 34)

- コマーシャルで子役が出ると、その場を離れる。終わればまた戻ってくる。
- お手洗い(5~10分)、お風呂の時間が長い(30~40分)。
- 食事の時、自分のことだけしかない。(ご飯をよそう、お茶を入れる、などをほかの人の分までやらない)
- 妹と顔を合わさないようにしている。

43

HW振り返りのポイント

- やってきたことを強化する。
- 出来ていたところを強化する。
- 出来ていない、やってこなかった場合、どんなところが難しかったかを教えてもらう。
- 難しかったところについて、必要に応じて資料を振り返りながら説明をする。講義的にならないように注意する。

44

機能分析を行う問題行動を選ぶ

- 問題行動の前後が明確なエピソードが分析しやすい。例: 暴言, など
- 問題行動の始まりが不明な場合(例: 数年間引きこもっている, 一日中ゲームをしている, など), 問題行動をしている状況を「外的きっかけ」、そのときの気持ち, 思考を「内的きっかけ」、問題行動によるメリットを「短期的結果」、デメリットを「長期的結果」に記載する。

45

例

- 息子は25歳になるのですが、自宅に引きこもって仕事をしていません。自宅に引きこもってから3ヶ月近くになります。このままではいけないという思いに駆られますが、焦らせてはいけなとそととしています。
- ある日、息子が昼過ぎに起きてきたときに、「何もせずに家にいるんだから、朝ぐらい早く起きたら」と言ってしまう。すると息子が、「うるさい、俺が何しよう勝手だろ!」と怒鳴りました。私は驚いてしまい、何も言えなくなってしまいました。
- それから息子の家族に対する暴力が続くようになりました。

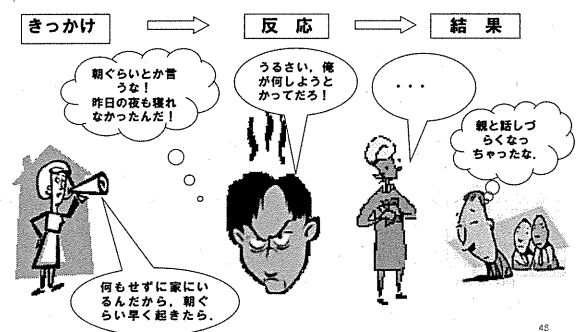
46

問題行動の機能分析

<p>問題行動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. どのような問題行動を繰り返しているか? 2. どのような状況で問題行動を繰り返しているか? 3. どのような状況で問題行動を繰り返しているか? 	<p>外的きっかけ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. どのような状況で問題行動を繰り返しているか? 2. どのような状況で問題行動を繰り返しているか? 3. どのような状況で問題行動を繰り返しているか? 4. どのような状況で問題行動を繰り返しているか? 5. どのような状況で問題行動を繰り返しているか? 	<p>内的きっかけ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. どのような気持ちで問題行動を繰り返しているか? 2. どのような思考で問題行動を繰り返しているか? 3. どのような気持ちで問題行動を繰り返しているか? 	<p>短期的結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. どのような短期的結果が問題行動を繰り返しているか? 2. どのような短期的結果が問題行動を繰り返しているか? 3. どのような短期的結果が問題行動を繰り返しているか? 	<p>長期的結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. どのような長期的結果が問題行動を繰り返しているか? 2. どのような長期的結果が問題行動を繰り返しているか? 3. どのような長期的結果が問題行動を繰り返しているか?
---	--	--	--	--

47

オペラント条件付けに基づく行動の理解



48

機能分析の理解のポイント

- 外的なきっかけ: 暴言のきっかけを母親が作っている。
- 内的なきっかけ: 暴言を吐くには本人なりの理由がある。
- 短期的結果: 暴言を吐くと母親が黙ることで、本人は短期的にポジティブな体験をする。
- 長期的結果: 暴言を繰り返していると、長期的には本人にとっても不利益となる家族関係の悪化が生じる。

49

機能分析を実施する際のポイント

- 順番よりも自然な語りを優先する。
- ワークシートにはThが記入する。
- 完成させることよりも、機能分析をやって気づいたことを大切にする。

50

機能分析で引き出すポイント

- 外的きっかけでは具体的に状況を記述し、問題行動が誘発される先行条件を特定する。
- 内的きっかけでは様々な可能性を検討し、子どもの気持ちに関する柔軟な思考を引き出す。
- 短期的結果では、問題行動を維持させているメリットを明確にする。デメリットもある場合があるが、それはメリットよりも小さい。
- 長期的結果では、問題行動の結末として起こるデメリットを明確にする。本人が同意できるデメリットが見つけられるとより良い。

51

ポジティブな コミュニケーションスキルの獲得

52

機能分析とコミュニケーションをつなげる

- 外的きっかけから、部分的に責任を受け入れられる余地がないか検討する。
- 内的きっかけでわかったことを言葉にすることで、受容、共感につながる。
- 短期的結果におけるメリットの除去、デメリットの生起のための実現可能な具体的方法を考える。
- 長期的結果における本人が同意できるデメリットについて言及することで、自省を促すことができる。
- これらのうちクライアントが実施可能なもの一つでもよいので見出す。

53

ポジティブなコミュニケーションスキル

- 短く
- 肯定的に
- 言及している行動を特定する
- 自分の感情を明確にする
- 思いやりのある発言をする
- 部分的に自分の責任を受け入れる
- 自省を促す
- 援助を申し出る

54

実践練習

- ①練習する場面を決めましょう
- ②一回やってみましょう
- ③やってくれた人の感想を聞きましょう
- ④やってくれた人のよかったところを言ってあげましょう
 ガイドライン(短く、肯定的に、特定の行動に注意を向ける、自分の感情に名前をつける、部分的に責任を受け入れる、自省を促す、援助を申し出る)、姿勢、視線、表情、声の大きさ、話す早さ、声のトーン、伝わる雰囲気、印象に残った言葉、
- ⑤こうするとよりいいかもというところを言ってあげましょう

55

実践練習のポイント(p.90)

- 演じる必要はない。言葉のやり取りから始める。
- お子さんが言いそうなセリフをこれまでのやりとりからピックアップしておく。
- 結論を得るまで話し続けるのではなく、簡潔で、気持ちのよい終わり方を心がける。
- 改善点の指摘は、クライアントができそうな一つのポイントにする。
- 改善点を実践できるか、同じ場面で再度ロールプレイを行う。

56

生活上の幸福感

以下の質問は、生活の10領域での現在の幸福度を評価することを要請していません。それぞれの領域を評価するときに、あなた自身に次のような質問をしてください。

この領域では、私の生活はどのくらい幸せだろうか？

それぞれの領域について、もっとも当てはまる数字(1-10)名で記入してください。あなたが今日の日に感じているかを正確に示してください。

注：「1」で最も当てはまるか、あなたの感情を最もよく表わしていません。他の領域の幸福度を高めるには、必ずしも「10」で満足している必要はありません。あなたが現在の幸福度を表わしてください。

	とても不幸せ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	とても幸せ
収入状況						5						
ひとごもり												
仕事/学校												
家族												
社会活動												
健康												
家族関係												
法律問題												
感情面のサポート												
コミュニケーション												
全体的幸福度												

58

家族自身の生活を豊かにする

57

家族の生活を豊かにするポイント

- 「〇〇すべき」という義務感ではなく、純粋に家族が楽しめる「ときめき」を大切にします。
- 家族への支援が必要な時は、このステップを十分に行う。
- 家族への支援ばかりで滞っている場合、他のステップをやることで家族自身の負担も減っていく可能性があることを伝え、他のステップを試してみる。

59

暴力的行動の予防

60

暴力的行動の機能分析

<p>暴力的行動</p> <p>1. いつかお子さんが暴力的行動を行いますか？</p>		
<p>外的きっかけ</p> <p>1. 暴力的行動を行ったとき、お子さんは誰に何をされたか？</p> <p>2. お子さん以外の誰かが暴力的行動をしたとき、お子さんは誰に何をされたか？</p> <p>3. 暴力的行動を行ったのは、どのような環境状況ですか？</p> <p>4. 暴力的行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がある場合はありますか？</p>	<p>内的きっかけ</p> <p>1. お子さんは、暴力的行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p> <p>2. 暴力的行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がある場合はありますか？</p> <p>3. 暴力的行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がある場合はありますか？</p> <p>4. 暴力的行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がある場合はありますか？</p>	<p>短期的結果</p> <p>1. お子さんは、暴力的行動を行ったことで、どのようなメリットを得ていますか？</p> <p>2. お子さんは、暴力的行動を行ったことで、どのようなデメリットを感じていますか？</p> <p>3. お子さんは、暴力的行動を行ったことで、どのような結果を感じていますか？</p> <p>4. お子さんは、暴力的行動を行ったことで、どのような結果を感じていますか？</p>
	<p>長期的結果</p> <p>1. 暴力的行動によってお子さんにはどのようなメリットがあると思いますか？</p> <p>2. 暴力的行動によってお子さんにはどのようなデメリットがあると思いますか？</p> <p>3. 暴力的行動によってお子さんにはどのような結果があると思いますか？</p> <p>4. 暴力的行動によってお子さんにはどのような結果があると思いますか？</p>	<p>4. 人間関係</p> <p>5. 身体健康</p> <p>6. 経済</p> <p>7. 法律</p> <p>8. 自尊</p> <p>9. 生活</p> <p>10. その他</p>

61

暴力行動の機能分析で引き出すポイント

- 暴力行動の程度、頻度から深刻度を査定する。
- 暴力行動の前兆となる「赤信号」を明確にする。
- 赤信号が見られた場合の安全確保の方法（その場から離れる、自宅外への退避、など）について具体的に決めておく。

62

上手にほめて望ましい行動を増やす

強化子とは？

- それを提示することでお子さんが喜ぶ刺激
- 褒めた結果、その行動が減ったら、家族が褒めるという刺激は、お子さんにとって強化子となっていない。
- 叱った結果、その行動が増えたら、家族が叱るという刺激は、お子さんにとって強化子となっている。
- 何が強化子になるかは、その刺激を与えることでお子さんの行動が増えることで確認できる。

63

64

望ましい行動の機能分析

<p>望ましい行動</p> <p>1. お子さんは望ましい行動を頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p> <p>2. お子さんは望ましい行動を頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p> <p>3. お子さんは望ましい行動を頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p>		
<p>外的きっかけ</p> <p>1. 望ましい行動を行ったとき、お子さんは誰に何をされたか？</p> <p>2. お子さん以外の誰かが望ましい行動をしたとき、お子さんは誰に何をされたか？</p> <p>3. 望ましい行動を行ったのは、どのような環境状況ですか？</p> <p>4. 望ましい行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がある場合はありますか？</p>	<p>内的きっかけ</p> <p>1. お子さんは、望ましい行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p> <p>2. お子さんは、望ましい行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p> <p>3. お子さんは、望ましい行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p> <p>4. お子さんは、望ましい行動が頻発し、あるいはひどくなる傾向がありますか？</p>	<p>短期的結果</p> <p>1. お子さんは、望ましい行動を行ったことで、どのようなメリットを得ていますか？</p> <p>2. お子さんは、望ましい行動を行ったことで、どのようなデメリットを感じていますか？</p> <p>3. お子さんは、望ましい行動を行ったことで、どのような結果を感じていますか？</p> <p>4. お子さんは、望ましい行動を行ったことで、どのような結果を感じていますか？</p>
	<p>長期的結果</p> <p>1. 望ましい行動によってお子さんにはどのようなメリットがあると思いますか？</p> <p>2. 望ましい行動によってお子さんにはどのようなデメリットがあると思いますか？</p> <p>3. 望ましい行動によってお子さんにはどのような結果があると思いますか？</p> <p>4. 望ましい行動によってお子さんにはどのような結果があると思いますか？</p>	<p>4. 人間関係</p> <p>5. 身体健康</p> <p>6. 経済</p> <p>7. 法律</p> <p>8. 自尊</p> <p>9. 生活</p> <p>10. その他</p>

65

望ましい行動の機能分析で引き出すポイント

- 外的きっかけにおいて、望ましい行動が生起する先行条件を明確にし、望ましい行動が生起しやすい状況を再現する。
- 内的きっかけにおいて、望ましい行動を行う前の変容を理解し、労う視点を身に着ける。
- 短期的結果において、望ましい行動を行う上での障害を明確にし、障害を取り除く工夫を考える。
- 長期的結果において、本人が同意するメリットを見出すことで、効果的な言語的強化を行う方法を考える。

66

先回りをやめ、しっかりと向き合って
望ましくない行動を減らす

望ましくない行動を減らす実践の 振り返りのポイント

- 深い感情の行動化(暴力, 不満, など)を「どうしてほしいの?」という問いかけによって主張行動に転換し、その言語表現に対してポジティブなコミュニケーションで対応していく。
- 望ましくない行動にネガティブな結果を随伴させるといふ方向性をふれさせない。
- 方向性は変えず、強度を変える。例: 部屋までご飯を運んでいたのを、階段の下まで取りに来るように言う。先回りをできるだけやめる。
- 望ましくない行動にネガティブな結果を随伴させた時の子供の反応について予想し、対応方法を具体的に練習する。

相談機関の利用を上手に勧める

受療を勧めるタイミング

- 重大な問題を起こして後悔している時
- 自分の問題について、全く予想していなかった意見を聞いて、動揺しているように見える時
- 家族がカウンセリングでやっていることを尋ねられた時
- 家族の行動が変化した理由を尋ねられた時

相談を促すときのポイント

- 本人が同意した場合、つなげられる場所を確保しておく。理想的には2か所以上(臨床心理相談室, きのぼり, ハナミズキ, サポステ, など)の選択肢を用意しておく。
- タイミングを見逃さない本人が同意した後は即座に動く(例: 受診する, 予約を入れる, など)。
- 一度で結論を見出す必要はない。

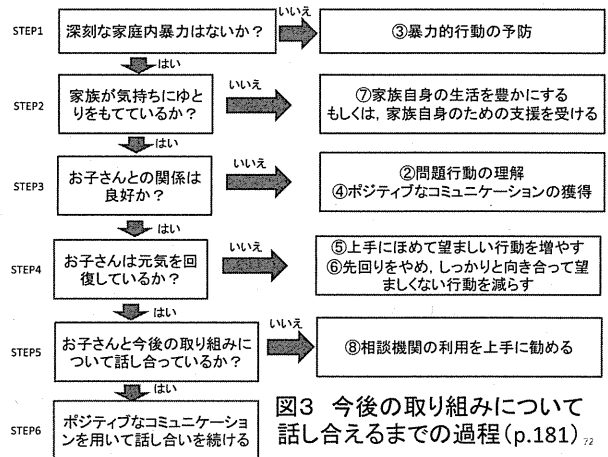


図3 今後の取り組みについて話し合えるまでの過程(p.181)

CRAFTによるひきこもりの家族支援 (野中ら, 2013)

ID	性別	年齢	ひきこもり 期間	転機
1	男性	20代前半	31	就学
2	男性	20代後半	120	就労後 ドロップアウト
3	女性	20代前半	42	受療
4	男性	30代前半	96	なし
5	男性	30代後半	132	受療
6	男性	20代前半	8	就労

※ひきこもり期間は月数。

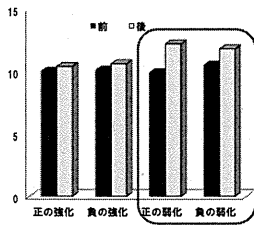
CRAFTの効用と限界

28

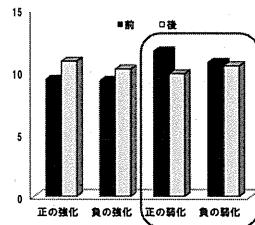
74

CRAFTによる家族機能の改善(境, 2012)

CRAFT群(N=10)

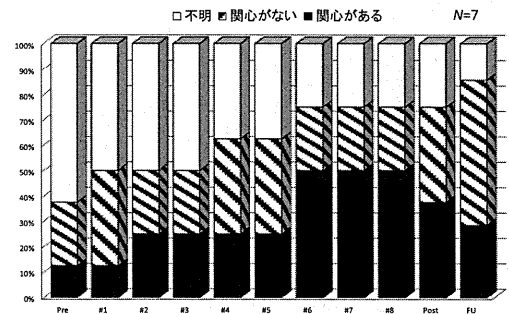


セルフ・ヘルプ群(N=11)



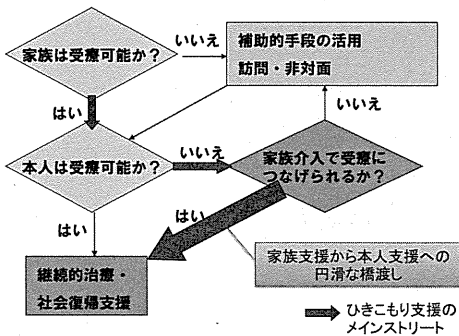
75

コミュニケーションの変化(境, 未公開)



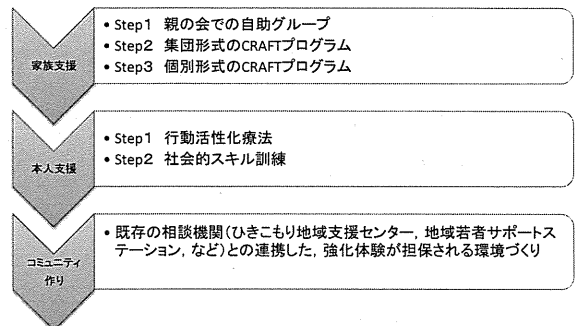
76

ひきこもり状態への支援における認知行動療法 (境, 2007に加筆)



77

本人のやる気を引き出す 認知行動療法システム



78

小野昌彦氏の講演資料

不登校ゼロ運動の実践

—地域・学校のネットワークについて—

宮崎大学大学院 専門行動療法士
博士(障害科学:筑波大学) 小野昌彦

I はじめに

現在、学校教育相談において問題解決を図る際、様々な人、機関とのネットワークは不可欠です。

そこで、本講では、発表者が顧問スーパーバイザーとして関わった不登校ゼロプロジェクトにおけるネットワークを取りあげます。そして、地域ぐるみでの不登校ゼロ達成にはいかなるネットワークが機能したのかを報告します。

不登校問題対策における地域ネットワークのモデルを考えてみましょう。

II A町の不登校減少プロジェクトについて

1 不登校減少プロジェクト実施の経緯

A町 1中学校、4小学校。

平成14年度 中学校不登校発生率 5.01%
(全国平均2.73% 地域における最多発生率)

A町教育委員会

最重点課題「不登校問題」解消に向けた
緊急対策の実施

2 プロジェクトの概要

(1)プロジェクトの目的:A町全体の不登校減少
不登校児への再登校援助、再登校児の再発防止、
不登校の発生予防

(2)プロジェクトチームメンバー:

校長1名

教頭(小・中)2名 副園長1名

各校担当教員5名

学校教育課長1名

顧問スーパーバイザー(大学教官)

合計11名

3 プロジェクトの方法

(1)運営 年2回プロジェクト会議

(2)再登校指導について

目的:不登校児の再登校支援

対象:不登校児本人、教員、保護者

方法:①個別指導・相談

再登校支援希望者に顧問がIEP

(個別教育プログラム)の作成し遂行支援

(適応指導教室、福祉施設、老人ホーム、民生委員

は必要であれば活用)

② 再登校指導全体研修(教職員研修の1部)

目的:再登校支援のための基本的な考え方の理解の促進

対象:全教職員(年2回)中学校教職員(年2回)

方法:講演 町内全教職員研修講演 年2回

テーマ

a 不登校ゼロ中学校達成事例

b A町再登校支援成功例(中学校:校長・教諭発表も実施)

c A町再登校支援成功事例(小学校:校長・教諭発表を含む)

d 再登校維持のためのポイント(小・中学校の教諭発表を含む)

(3)不登校再発防止について

目的:再登校した子どもの登校維持

対象:主に学級担任、保護者

方法:顧問の学校コンサルテーションによる各再登校事例の留意点に関する指導

例:夏季バックアップスタディ
マラソン大会事前トレーニングなど

(4)不登校発生予防

目的:不登校の発生予防

対象:全教職員、保護者

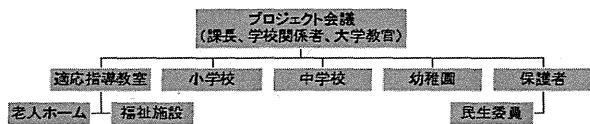
方法:

①教育委員会主催の教員研修
(全教職員が授業・保育交換を一人1回実施)

②夏季休業中ボランティア活動2回
(ボランティア場所:畳屋、家具屋、鉄工所等)

4 地域ネットワークの構築

(1)プロジェクトのネットワーク(開始時)



(2)IEP(個別教育プログラム)に基づく再登校支援のためのネットワークの構築

目的:再登校支援のための各機関の系統的支援体制の確立

方法:IEPに基づき教育委員会、学校、保護者、適応指導教室、生活指導員の役割分担・連携

(2)再登校支援経験を持つ教師グループからのネットワーク

目的:再登校支援成功のために必要な情報を教師、保護者に伝達

方法:

- ①再登校支援成功校長とA町校長との面接設定
- ②再登校支援経験教師から情報発信(校内研修、町内教職員研修等)、継続的に情報提供希望教師とのかかわりを調整

5 プロジェクトの経過と結果(平成15年4月～平成16年10月)

(1)経過の概要

Table1 経過の概要

月日	内容
5月中旬	町内全教職員研修 テーマ:不登校ゼロ中学校への挑戦
8月中旬	中学校希望ケースへの担任への助言、中学校校内研修。 不登校児を抱える親の会実施 (中学校月1回)

9月下旬 学校復帰希望2(A、B)ケースについて本人、保護者面接実施。IEP作成。担任への電話等によるコンサルテーション開始。不登校ゼロ中学校校長大橋先生とA中校長面談実施

11月 2ケース(A、B)学級登校状態となる。

12月中旬 中学校校内研修(再登校支援成功した教員と保護者の話も含む)小学校1ケース(C)保護者面接。学校コンサルテーション開始。IEP作成。

中学校での再登校成功経験スタッフ(校長、担当教師)と小学校でのこれから再登校を支援するスタッフ(校長、担任、不登校担当教師)の学習会実施(場所:中学校)。この後、小学校教師から再登校支援につながりができる。

平成16年

1月下旬 C本人面接。翌日から再登校。再発防止のための助言実施。

3月 A、Bケースの終結面接。3(D、E、F)ケース面接し援助開始。再登校支援成功教師から学内ケース担当教師との助言。意見交換などによるつながりができる。

IEPの内容と適応指導教室指導内容の統一を図る為の担任と適応指導教室のつながりができる。この時点で不登校児中7名が学校現場に復帰。

春休み 適応指導教室指導員によるCへの学習補充(小学校場面、復習中心)。

4月 町内の幼・小・中学校教職員への欠席対策開始。1(G)ケース面接し援助開始。

5月中旬 全教職員研修会(校長、教員発表。再登校の維持のために)。

5月下旬 中学校父親懇談会実施。

6月 前述のケースを含む全ケースが教室登校達成。

夏休み 開始1週間と終了前1週間に学習補充を目的としたバックアップスタディを実施。

夏休み 体育祭に中学校生徒全員出席。
後

再登校を支援した親の会(名称変更)

10月時点 不登校児ゼロ

(2)現在までの不登校発生状況

①中学校の不登校発生状況

平成14年度の中学校における不登校発生率 5.01%(18名)

平成15年度 3.32%(12名)

平成16年度4月時点 0名、10月1日時点 0名維持

②小学校の不登校発生状況

4小学校平成14、15年ともに不登校児1名

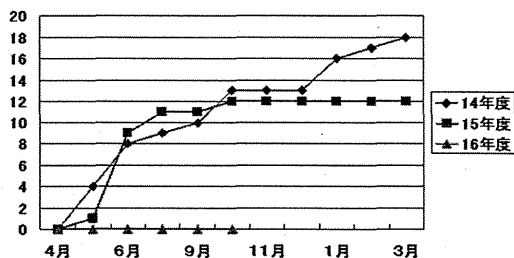
平成15年度中に再登校

16年度4月時から不登校児 0名 10月時点 0名

③A町の不登校状況

本プロジェクト1年6ヶ月経過時点 全小・中学校、町全体で不登校児 0名。図1に年度別の月毎の不登校児数を示す。

図1 A町の年度毎の月別不登校児数



(3) ネットワークの形成

①IEPネットワーク

結果:各ケースにおいてIEPを基に顧問、保護者、担任、校長、適応指導教室指導員(必要な場合のみ)が連携

支援結果:8名の再登校支援(平均2ヶ月)登校維持事例紹介(資料参照)

②再登校支援経験教師からのネットワーク

結果:a支援経験教師1名→同学年不登校担当教師3名→学内教師18名→他小学校再登校支援担当教師6名(担当不登校児1名1ヶ月で再登校)

b支援経験教師1名→保護者の会5名→不登校中の子供を持つ保護者2名

Ⅲ 地域ネットワークの有効性と問題点

(1)プロジェクトネットワーク:

地域全体を網羅する基幹ネットワーク
再登校、予防対策、成果の迅速な地域への伝達
ネットワーク構築の基礎

(2)IEPネットワーク:

個別支援のためにできたネットワーク
各機関連携による再登校支援の短期解決促進

(3)支援経験教師からのネットワーク:

教師・保護者のニーズによって自然発生的に生まれ
たネットワーク

教師の対応法(子どもへの対応、役割)の理解の促進
再登校支援の効率アップ

(4)今後の課題

①ネットワークの管理運営責任体制とその整備

(発信元の明確化、誰が情報管理するのか、問題が起こった時
はどうするのか等)

②1中学校区を一つの単位としてネットワークを考えること。中心と なる場所から、現時点での横のネットワーク、時間軸での縦の ネットワークを配慮する(基礎ネットワーク)。

③ネットワークの目標は、再登校支援、再発予防、発生予防とする こと。

④再登校支援・再発予防ネットワークは、IEPを核に専門家、教師、 保護者、適応指導教室などをつなぐこと。

⑤予防に関しては、幼稚園から中学校までのネットワーク、それぞ れにおける専門家、教師、保護者をつなぐこと。

⑥自然発生的なネットワークを適切な機関とつなげること。

CRAFTの実施にまつわるQ&A集

以下のQ&Aにおいては、Meyers 先生の回答にM、それ以外の回答にAを付しています。

CRAFT 実施に際する全般的問題

Q： 日本ではご両親を呼びつけるのは、身体的にも70歳にもなるご両親をクリニックに呼びつけるということが難しいので奥さんに働きかけることが多いのですが、それらを考慮してもご両親のほうがよろしいでしょうか？

M： 我々のプログラムでも、約10%と少数でしたが実際に60代、70代の人々がいました。例えば、年配者専用のプログラムを作ると上手くいくのではないのでしょうか。私であれば、65歳以上を対象にしていると分かるポスターなどを作り、また、施設まで無料の移動手段を提供します。

「こんな問題を抱えているのは自分だけだ」と思っている人は非常に多くいますが、とくに60歳70歳になると余計に「もうどうすることもできない」と思いがちですが、メッセージを広めてグループを同質的なものに保てば上手くいくと思います。

Q： Unilateral、一方向性という意味をもう少し教えてください。飲酒者とCSO両方に働きかけないで、CSOから働きかけるという意味ですか？

M： アメリカで文献においてUnilateral という場合、「別の誰かを伴わず、ひとりで問題に対処する」ということを示します。UNIはひとりという意味ですね。つまり、誰かに関して対処しているけれど、その誰かはその場にはいない、ということです。

Q： 研究において個別ケアの場合、12セッションした後にアフターケアの希望があれば行うということだが、信頼関係の構築に12回で十分なのでしょうか？

M： データによれば、71%という結果が得られているので有効と言えるでしょう。しかし、もし参加者らがそれより長期間の治療にすることが可能であれば、そうしたいと望む人は多いと思います。我々の場合、助成金と言うのは一定期間で切られるもので、終了と言われたらそこで終了なんです。もしより長期間CSOを診ることができればきっと我々の得た結果より良いものが得られるのではないのでしょうか。

Q： 個別のCRAFTセッションの頻度は？

M： 通常は週1回です。ですが、進度が遅そうなCSOなら隔週でも構いませんし、早い人には週2回やっても構いません。セラピスト次第です。24セッションやっても構いません。ですが、我々の研究では通常12回を6か月でこなします。

Q： CRAFT の評価指標は何ですか？

M： 主な変数は、エンゲージメント（治療開始）があったか、エンゲージメントがなかったか、です。

Q： 治療開始以外にも CSO の機能向上を図るという目標があるが、それらを評価する指標は何ですか？

M： 5 つほどの測定指針を使用しています。Beck's Depression Inventory, Spielberger Anger Inventory, Spielberger Anxiety Inventory, Moose's Healthy Daily Living Scale です。これらは、アルゴリズムやリサーチに基づいてその信頼性と有効性を査定するための精神測定特性です。これらの測定指針を用いて、彼らの状態がいかに向上しているかを確認します。

Q： CRAFT の新しい取り組みという中に、「すでに治療を開始した人対象の CRAFT」というのがありますが、それはどういうことを行うのか。また、構成メンバーは（治療に）つながった人とつながっていない人を一緒にするのか、それとも治療中の人だけを集めてするのか教えていただきたい。

M： 今までのところ、私の知る限りでは一緒にはしていません。住居型の治療施設で（すでに治療を開始した人対象の）CRAFT を取り入れているところがあります。一緒にした場合の試験を行ったことがないので、効果については分かりません。私の知る限りでは治療を開始した人対象のものには治療開始した人しか参加していないので、その質問にはお答えできません。

こうしたことをやる目的は、コミュニケーション・スキルを教え、ポジティブなことをするやり方を教えるためです。回復者が治療施設を出て家に帰った時、CSO がやはり怒鳴ったり怒ったりしているようなら、IP はまた治療施設に舞い戻ることになります。CSO が怒鳴ったり怒ったりするのをやめよう、と決意するのは、そんなことをしても IP をもっと追いつめるだけだと（CRAFT から）学ぶからです！

Q： CRAFT というのは幸福度尺度（Happiness Scale）をとって、そのあと危険、暴力度の査定をして、というように順番にやるものと思っていたが、今日のワークショップを聞いているとそれぞれの順番はなさそうに思える。その CSO、クライアントに対してどれが今いちばん良いのか、今幸福度尺度（Happiness Scale）をやったほうが良いなと思ったらやるし、ほかの CSO の場合には機能分析（Functiona Analysis: FA）を先にやったほうが良いな、というふうに臨機応変にやっていいということなのか。

M： なんでも、どうにでも、好きなように使って構いません。

本というのはその型にはめなければならないのであいう形になっているだけ

で、その通りの順に進めなくてはならないわけではありません。私は決して、まずこれを最初にやって、次にこれをやって、という指図をすることはありません。セラピストはあなた方なんですから、あなた方が判断しなくてはならない。私のクライアントではなく、あなたのクライアントなのだから、決断するのはあなた方です。

Q： 順序はフレキシブルで構わないということだが、前提として、マップを作ることと、バイオレンスの査定は早めにするということが前提なのか、という点と、治療開始（エンゲージメント）は後のほうが良いというおよそそうなのかということだけ確認したい。

M： DV は最初に確認しておくべきですね。

ですが、治療開始（エンゲージメント）に関しては、CSO によって、2 回目、3 回目、4 回目、5 回目、6 回目いつやっても構いません。また、早めに紹介して、プロトコル（手順）の最後まで時間をかけて作業しても良いと思います。我々の研究で治療開始（エンゲージメント）までに要した平均回数は 6 セッションでした。CSO のことをよく分かっているのであれば、それよりずっと早い段階でやっても構いません。また、CSO の中には夫に話そうという姿勢を最後まで見せなかった人もいました。あと 12～15 週あったらどうなっていたかは分かりませんが。

しかし、中には初めてのセッションにやってきて、プログラムについての説明を聞くや否や、「いますぐあの大バカ者を呼んで連れてきます！」と言うような人もいます。そんな人は、止めなければなりませんね。「ちょっと待って。まだ準備が何もできていません。もう少し時間をかけないと。焦らず、忍耐強くやりましょうね」と。

Q： CRAFT の技術の対象年齢としては CSO が十代の場合でもアメリカでは実践されているのか。また、十代の子供が CSO の場合、配慮すべき点があるかどうかを教えてください。

M： 現在アメリカでは、母親や父親の飲酒・薬物問題の手助けをするためのティーンエイジャー対象プログラムが行われています。ですが、ティーンエイジャーが IP に治療を開始させるために良い CSO になれるということを示す臨床研究は見たことがありません。最低でも 17 歳、18 歳以上の非常に成熟した人ならプログラムに入れてもいいかと思いますが、例えば 14、5 歳の少年と父親の間に存在する力の差というのは非常に大きく、個人的にはこのような設定は失敗しか生まないと考えます。

Q： CRAFT の目標は治療につながるということだが、そのあとの家族の行動変移はなかなか難しいと思うのだが、CRAFT でずっと継続的に行動変移を促してい

くのか？IPの治療につながった後は、日本だと断酒会とかにある程度通ってもらいというような形だが、CRAFTではどんなケアをしていくのか？

M： 良い質問です。

CSOが望む限り、もしくはセラピストが必要と感じる限り、CRAFTで治療を続けます。IPは自身のセラピストをもったうえで、CRAやCBTといった実証に基づく治療方法によってそれぞれの問題を解決すべきです。そして、CSOとIPの両方が治療を受け、十分な回数のセッションを行った後に、カップルセラピーを行うことをお勧めします。

Q： CSOがクライアントなのなら、CSOのカルテも作るのか？

M： それはあなた次第です。どちらでも構わない。私は気にしません。場所によって一緒にしているところもあれば、別になっているところもあります。

Q： 夫婦で参加しているが、夫婦間で取り組みのモチベーションに差がある場合、どのように対応したらよいか？

A： このような場合は、モチベーションの低い方に、来談してくれた感謝の気持ちを伝えたり会話を振ってみたりして、発言しやすいような雰囲気づくりをする方法があります。

Q： CSOが家族以外(学校の先生など)の場合でも、やり方は変わらないのでしょうか。また、親、学校の先生などに二重でCRAFTを行うことは可能なのでしょうか？

A： CSOは関心を持ってくれている重要な他者という意味ですので、CSOが家族以外の場合もあります。しかしCSOを選択する際、IPとある程度の接触があり、IPの行動に影響を与えうる可能性のある人をCSOとするのが効果的であると考えられます。

1人のIPに対して二人のCSOにCRAFTを行うことも可能だと思います。典型的には、ひきこもりの子どもをIPとした時に、その両親がCSOになるという場合です。しかし、二人のCSOにCRAFTを行う、その二人が協力的関係を気付けるのかについて慎重な査定を行う必要があります。たとえば、当初母親のみの参加であった場合において、父親が参加することで母親が思っていることを言えなくなるようであれば、父親の参加は控えておいてもらう方が得策であると考えられます。

Q： CRAFTを指導する際、行動療法の知識がない人でも実施可能か？

A： 厳密な機能分析にこだわる必要はなく、基本的に問題行動に関する4つの情報(きっかけ、きもち、メリット、デメリット)があればよいと考えてください。また指導をする際には、支援者のどのような対応が家族の良い変化につながっているのかと